

Oracle® Application Server 10g

クイック・インストールおよびアップグレード・ガイド

10g (9.0.4) for Solaris Operating System (SPARC)

部品番号 : B13559-01

2004 年 1 月

Oracle Application Server 10g クイック・インストールおよびアップグレード・ガイド, 10g (9.0.4) for Solaris Operating System (SPARC)

部品番号 : B13559-01

原本名 : Oracle Application Server 10g Quick Installation and Upgrade Guide, 10g (9.0.4) for Solaris Operating System (SPARC)

原本部品番号 : B10936_01

Copyright © 2003 Oracle Corporation. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとし、著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation, and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることが使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。その他の名称は、Oracle Corporation または各社が所有する商標または登録商標です。

目次

1 概要

2 要件

2.1	要件のチェック	2-2
2.2	Solaris オペレーティング・システムのパッチのチェック	2-4
2.2.1	Solaris 8	2-4
2.2.2	Solaris 9	2-5
2.3	オペレーティング・システム・パッケージのチェック	2-5
2.4	インベントリ・ディレクトリのグループの作成	2-6
2.5	データベース・グループの作成	2-7
2.6	オペレーティング・システム・ユーザーの作成	2-7
2.7	環境変数のチェック	2-8
2.8	カーネル・パラメータのチェック	2-10
2.9	ポート使用状況のチェック	2-11
2.10	CD-ROM または DVD のマウント	2-12
2.11	インストーラの起動	2-13

3 インストール

3.1	Java 開発者トポロジのインストール	3-2
3.2	Portal and Wireless 開発者トポロジのインストール	3-4
3.2.1	OracleAS Infrastructure 10g のインストール	3-4
3.2.2	Portal and Wireless インスタンスのインストール	3-8
3.3	「ようこそ」 ページへのアクセス	3-11

4 OracleAS Metadata Repository の既存の Oracle データベースへのインストール

5 アップグレード

5.1	表記規則	5-2
5.2	アップグレード前のタスクの実行	5-2
5.2.1	Oracle Application Server 10g (9.0.4) のインストール	5-2
5.3	J2EE and Web Cache のアップグレードの実行	5-3
5.4	Portal and Wireless のアップグレードの実行	5-4

6 その他のリソース

6.1	クイック・リファレンス	6-2
6.2	オラクル製品のインストールに関する情報	6-2
6.3	Oracle Technology Network Japan	6-3
6.4	OracleDirect	6-5
6.5	サポートサービス	6-6
6.6	研修サービス	6-8

1

概要

Oracle Application Server を本番環境へインストールする前に、またはコンピュータに既存の Oracle ソフトウェアがインストールされている場合は、Oracle Application Server のインストール・ガイドおよび Oracle Application Server のリリース・ノートを確認することをお勧めします。

Oracle Application Server のクイック・インストールおよびアップグレード・ガイドでは、次の Oracle Application Server のインストール・タイプのインストール手順について説明します。

- Java 開発者トポロジ： J2EE and Web Cache 中間層から構成されます。
- Portal and Wireless 開発者トポロジ： Portal and Wireless 中間層および OracleAS Infrastructure 10g から構成されます。

表 1-1 に、Oracle Application Server のクイック・インストールおよびアップグレード・ガイドの内容を示します。

表 1-1 このマニュアルの内容

項	内容
第 2 章「要件」	2.1 項「要件のチェック」 2.2 項「Solaris オペレーティング・システムのパッチのチェック」 <ul style="list-style-type: none"> ■ 2.2.1 項「Solaris 8」 ■ 2.2.2 項「Solaris 9」 2.3 項「オペレーティング・システム・パッケージのチェック」 2.4 項「インベントリ・ディレクトリのグループの作成」 2.5 項「データベース・グループの作成」 2.6 項「オペレーティング・システム・ユーザーの作成」 2.7 項「環境変数のチェック」 2.8 項「カーネル・パラメータのチェック」 2.9 項「ポート使用状況のチェック」 2.10 項「CD-ROM または DVD のマウント」 2.11 項「インストーラの起動」
第 3 章「インストール」	3.1 項「Java 開発者トポロジのインストール」 3.2 項「Portal and Wireless 開発者トポロジのインストール」 <ul style="list-style-type: none"> ■ 3.2.1 項「OracleAS Infrastructure 10g のインストール」 ■ 3.2.2 項「Portal and Wireless インスタンスのインストール」 3.3 項「「ようこそ」 ページへのアクセス」
第 4 章「OracleAS Metadata Repository の既存の Oracle データベースへのインストール」	
第 5 章「アップグレード」	5.1 項「表記規則」 5.2 項「アップグレード前のタスクの実行」 <ul style="list-style-type: none"> ■ 5.2.1 項「Oracle Application Server 10g (9.0.4) のインストール」 5.3 項「J2EE and Web Cache のアップグレードの実行」 5.4 項「Portal and Wireless のアップグレードの実行」

表 1-1 このマニュアルの内容（続き）

項	内容
第 6 章「その他のリソース」	6.1 項「クイック・リファレンス」
	6.2 項「オラクル製品のインストールに関する情報」
	6.3 項「Oracle Technology Network Japan」
	6.4 項「OracleDirect」
	6.5 項「サポートサービス」
	6.6 項「研修サービス」

注意： 既存の Oracle ホームがあるコンピュータにインストールする場合は、インストールの前に Oracle Application Server のインストール・ガイドおよび Oracle Application Server のリリース・ノートをお読みになることをお勧めします。Oracle 製品がインストールされているかどうかを確認するには、`/var/opt/oracle/oraInst.loc` ファイルが存在するかどうかを確認してください。

関連項目：

- Oracle Application Server のインストール・ガイド
- Oracle Application Server のリリース・ノート

この章では、Oracle Application Server のインストールのインストール前の要件について説明します。次の項の一覧にあるタスクを確認し、完了しておくことをお勧めします。

- 2.1 項「要件のチェック」
- 2.2 項「Solaris オペレーティング・システムのパッチのチェック」
- 2.3 項「オペレーティング・システム・パッケージのチェック」
- 2.4 項「インベントリ・ディレクトリのグループの作成」
- 2.5 項「データベース・グループの作成」
- 2.6 項「オペレーティング・システム・ユーザーの作成」
- 2.7 項「環境変数のチェック」
- 2.8 項「カーネル・パラメータのチェック」
- 2.9 項「ポート使用状況のチェック」
- 2.10 項「CD-ROM または DVD のマウント」
- 2.11 項「インストーラの起動」

2.1 要件のチェック

お使いのコンピュータが次のディスク領域およびメモリーの要件を満たしていることを確認してください。

	Java 開発者ト ポロジ	Portal and Wireless 中間層	OracleAS Infrastructure 10g
オペレーティング・システム	Solaris 8, Solaris 9	Solaris 8, Solaris 9	Solaris 8, Solaris 9
メモリー	512 MB	1 GB	1 GB
メモリー容量を確認するには、次の <code>prtconf</code> コマンドを使用します。	(524288 KB)	(1048576 KB)	(1048576 KB)
<code>prompt> prtconf grep Memory</code>			
ディスク領域 ¹	450 MB	975 MB	2.6 GB
空きディスク領域の大きさを確認するには、次の <code>df</code> コマンドを使用します。	(460800 KB)	(998400 KB)	(2726298 KB)
<code>prompt> df -k dir</code>			
/tmp 内の領域	150 MB	150 MB	150 MB
	(153600 KB)	(153600 KB)	(153600 KB)
スワップ領域 ²	1.5 GB	1.5 GB	1.5 GB
使用可能なスワップ領域の大きさを確認するには、次の <code>swap</code> コマンドを使用します。	(1572864 KB)	(1572864 KB)	(1572864 KB)
<code>prompt> swap -l</code>			
<code>free</code> 列の値は未使用ブロックの数を示し、1ブロックは512バイトです。ブロック数をKBに変換するには、ブロック数を2で割ります。たとえば、2,000,000個の未使用ブロックは1,000,000KBです。			

1. `dir` を Oracle Application Server のインストール先ディレクトリに、あるいは、インストール先のディレクトリがまだない場合はその親ディレクトリに置き換えます。たとえば、Oracle Application Server を `/opt/oracle/infra` にインストールする場合は、`dir` を `opt/oracle` または `/opt/oracle/infra` に置き換えることができます。
2. 十分なスワップ領域がない場合は、次の作業を実行します。

- a. root ユーザーとしてログインし、空のスワップ・ファイルを作成します。

```
prompt> su
Password: root_user_password
prompt> mkfile size swap_file_name
```

サイズをメガバイト単位で指定するには、サイズの後に "m" を追加します (例: 600m)。このファイルの最小サイズは、現在使用可能なスワップ領域と必要なスワップ領域の差よりも大きい必要があります。たとえば、空いているスワップ領域が 100 MB である場合、J2EE and Web Cache のインストールで構成される Java 開発者トポロジに対して、このスワップ・ファイルは最低でも 640 MB 必要です。

- b. 次のコマンドを使用して、ファイルのスワップ領域に追加します。

```
prompt> /usr/sbin/swap -a swap_file_name
```

- c. /etc/vfstab ファイルに次の行を追加します。この行を追加しない場合は、コンピュータを再起動したときに追加したスワップ領域が保たれません。

```
/path/to/swap/file - - swap - no -
```

/path/to/swap/file を、スワップ・ファイルの場所に置き換えてください。

- d. 新しいスワップ領域のサイズを確認します。

```
prompt> /usr/sbin/swap -s
```

関連項目： その他のシステム・ハードウェアの要件については、Oracle Application Server のインストレーション・ガイドを参照してください。

2.2 Solaris オペレーティング・システムのパッチのチェック

コンピュータに次の項で説明するオペレーティング・システムのパッチ（またはこれらのパッチより新しいバージョン）があることを確認します。

- [2.2.1 項「Solaris 8」](#)
- [2.2.2 項「Solaris 9」](#)

2.2.1 Solaris 8

- 108652-74 以上 : X11 6.4.1: Xsun Patch
- 108921-17 以上 : CDE 1.4: dtwm patch
- 108940-57 以上 : Motif 1.2.7 および 2.1.1: Runtime library patch
- 112003-03 以上 : Unable to load fontset in 64-bit Solaris 8 iso-1 or iso-15
- 108773-18 以上 : IIIM and X input & output method patch
- 111310-01 以上 : /usr/lib/libdhcpagent.so.1 patch
- 109147-26 以上 : Linker patch
- 111308-04 以上 : /usr/lib/libmtmalloc.so.1 patch
- 112438-02 以上 : /kernel/drv/random patch
- 108434-13 以上 : 32-bit shared library patch for C++
- 111111-03 以上 : /usr/bin/nawk patch
- 112396-02 以上 : /usr/bin/fgrep patch
- 110386-03 以上 : RBAC feature patch
- 111023-02 以上 : /kernel/fs/mntfs and /kernel/fs/sparcv9/mntfs patch
- 108987-13 以上 : Patch for patchadd and patchrm
- 108528-24 以上 : Kernel update patch
- 108989-02 以上 : /usr/kernel/sys/acctctl and /usr/kernel/sys/exactsys patch
- 108993-26 以上 : LDAP2 client, libc, libthread and libnsl libraries patch
- 112138-01 以上 : usr/bin/domainname patch

2.2.2 Solaris 9

- 113096-03 以上 : X11 6.6.1: OWconfig patch
- 112785-26 以上 : X11 6.6.1: Xsun Patch

コンピュータにインストールされているパッチのリストを取得するには、次の手順を実行します。

1. `showrev` コマンドに `-p` オプションを指定して実行します。次のコマンドによって、`patchList` というファイルにソートされた出力が保存されます。

```
prompt> showrev -p | sort > patchList
```

2. `vi` や `emacs` などのテキスト・エディタ内でファイルを開き、パッチ番号を検索します。パッチが必要な場合は、次の URL からダウンロードできます。

```
http://sunsolve.sun.com
```

ドメイン名のパッチ (112138-01 以上) も含めた J2SE パッチ・クラスタをインストールすることによって、すべてのパッチ要件を満たすことができます。

2.3 オペレーティング・システム・パッケージのチェック

コンピュータに、必要なオペレーティング・システム・パッケージがインストールされていることを確認します。

SUNWarc	SUNWlibm	SUNWtoo
SUNWbtool	SUNWsprout	SUNWi1of
SUNWhea	SUNWsprrox	SUNWxwfont
SUNWlibm	SUNWi15cs	SUNWi1cs

オペレーティング・システム・パッケージがコンピュータにインストールされているかどうかを確認するには、`pkginfo` コマンドにパッケージの名前を指定して実行します。`pkginfo` を実行するための構文を次に示します。

```
pkginfo package_name1 package_name2 ...
```

たとえば、一覧で示したオペレーティング・システム・パッケージがすべてがコンピュータにインストールされているかどうかを確認するには、次のコマンドを実行します。

```
prompt> pkginfo SUNWarc SUNWbtool SUNWhea SUNWlibm SUNWlibms SUNWsprout SUNWsprrox
```

SUNWtoo SUNWilof SUNWkwfnt SUNWilcs SUNWi15cs

インストールされていないパッケージがある場合は、システム管理者に問い合わせてください。

2.4 インベントリ・ディレクトリのグループの作成

ローカルのオペレーティング・システム・グループを作成するには、Solaris Management Console を使用します。

1. Solaris Management Console のウィンドウを表示するモニターを示すように、環境変数 DISPLAY を設定します。環境変数 DISPLAY のフォーマットは次のとおりです。

```
hostname:display_number.screen_number
```

例 (C シェル) :

```
% setenv DISPLAY test.mydomain.com:0.0
```

例 (Bourne/Korn シェル) :

```
$ DISPLAY=test.mydomain.com:0.0; export DISPLAY
```

2. Solaris Management Console を起動します。

```
prompt> /usr/sadm/bin/smc
```

3. 左フレームで「This Computer」を展開し、次に「System Configuration」を展開します。
4. 「Users」をクリックします。「Log In」ウィンドウが表示されます。
5. 「Log In」ウィンドウで、root ユーザーとしてログインします。
6. 左フレームで「Users」を展開し、「Groups」を選択します。
7. 「Action」> 「Add Group」の順に選択します。
8. 「Group Name」に、グループ名として oinstall を入力します。
9. 「OK」をクリックします。

オペレーティング・システムのユーザーとグループの詳細は、オペレーティング・システムのドキュメントを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

2.5 データベース・グループの作成

この項は、Portal and Wireless 開発者トポロジをインストールする場合にのみ適用されません。

2.4 項に示す手順に従って、dba および osoper の 2 つのグループを作成します。

2.6 オペレーティング・システム・ユーザーの作成

ローカルのオペレーティング・システム・ユーザーを作成するには、Solaris Management Console を使用します。

1. Solaris Management Console のウィンドウを表示するモニターを示すように、環境変数 DISPLAY を設定します。環境変数 DISPLAY のフォーマットは次のとおりです。

```
hostname:display_number.screen_number
```

例 (C シェル) :

```
% setenv DISPLAY test.mydomain.com:0.0
```

例 (Bourne/Korn シェル) :

```
$ DISPLAY=test.mydomain.com:0.0; export DISPLAY
```

2. Solaris Management Console を起動します。

```
prompt> /usr/sadm/bin/smc
```

3. 左フレームで「This Computer」を展開し、次に「System Configuration」を展開します。
4. 「Users」をクリックします。「Log In」ウィンドウが表示されます。
5. 「Log In」ウィンドウの「User Name」に「root」と入力します。「Password」に、ルートのパスワードを入力します。
6. 左フレームで「Users」を展開し、「User Accounts」を選択します。
7. 「Action」> 「Add User」> 「With Wizard」の順に選択します。
8. 「User Name」に、ユーザーの名前 (oracle) を入力します。「Full Name」フィールドと「Description」フィールドはオプションです。「Next」をクリックします。
9. 「User ID Number」はデフォルト値を使用します。「Next」をクリックします。
10. 「User Must Use This Password At First Login」を選択し、ユーザーのパスワードを入力します。「Next」をクリックします。
11. 「Primary Group」で、ユーザーのプライマリ・グループを選択します。これは、インベントリ・ディレクトリを所有するために作成したグループです。「Next」をクリックします。

12. 「Path」に、ユーザーのホーム・ディレクトリを入力します。「Next」をクリックします。
13. ユーザーのメール・サーバー情報を確認し、「Next」をクリックします。
14. ユーザー情報を確認して「Finish」をクリックすると、ユーザーが作成されます。

オペレーティング・システム・ユーザーが所属するグループを確認するには、`groups` コマンドにユーザー名を指定して実行します。たとえば、次のようになります。

```
prompt> groups oracle
```

オペレーティング・システムのユーザーとグループの詳細は、オペレーティング・システムのドキュメントを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

2.7 環境変数のチェック

oracle ユーザーとしてログインする場合は、表 2-1 に示す環境変数の値を確認してください。

注意： 別のユーザーとして環境変数を設定し、後に `su - oracle` コマンドを使用して oracle ユーザーに切り替えた場合は、環境変数が oracle ユーザーに渡されない可能性があります。インストーラを起動する前に、必ず環境変数を確認してください。

表 2-1 環境変数

環境変数	説明
DISPLAY	現在のコンピュータに設定します。 例 (C シェル) : % <code>setenv DISPLAY machine1.acme.com:0.0</code> 例 (Bourne/Korn シェル) : \$ <code>DISPLAY=machine1.acme.com:0.0; export DISPLAY</code>
TMP	インストーラで /tmp 以外のディレクトリを使用するには、環境変数 TMP に代替りのディレクトリのフル・パスを設定します。 例 (C シェル) : % <code>setenv TMP /tmp2</code> 例 (Bourne/Korn シェル) : \$ <code>TMP=/tmp2; export TMP</code>

表 2-1 環境変数 (続き)

環境変数	説明
ORACLE_HOME and ORACLE_SID	インストーラによって、これらの変数の設定が解除されます。
PATH、CLASSPATH および LD_LIBRARY_PATH	これらの変数にいずれの Oracle ホーム・ディレクトリへの参照も含まれていないことを確認します。環境変数の値を表示するには、次の echo コマンドを使用します。 例 (C シェル) : % echo \$PATH 例 (Bourne/Korn シェル) : \$ echo \$PATH 環境変数 PATH に Oracle ホーム・ディレクトリが含まれている場合は、この変数に Oracle ホーム・ディレクトリ以外の現在のディレクトリが含まれるように設定します。
TNS_ADMIN	この環境変数が設定されていないことを確認します。 例 (C シェル) : % unsetenv TNS_ADMIN 例 (Bourne/Korn シェル) : \$ unset TNS_ADMIN

2.8 カーネル・パラメータのチェック

この項は、Portal and Wireless 開発者トポロジをインストールする場合にのみ適用できません。

カーネル・パラメータが表 2-2 に示すように最小値に設定されていることを確認してください。その後で、OracleAS Metadata Repository のデータベースをインストールします。

注意： カーネル・パラメータの値を更新した場合、コンピュータを再起動して新しい値を有効にする必要があります。

表 2-2 カーネル・パラメータの値

パラメータ	最小値	説明
SEMMNI	100	システム全体のセマフォ・セットの最大数を定義します。
SEMMNS	256	システム上の最大セマフォ数を定義します。この設定は、最初のインストールに対してのみの、最小推奨値です。 SEMMNS パラメータには、Oracle データベースごとの PROCESSES パラメータの値の合計にその最大値を 2 度加算し、さらにデータベースごとに 10 を加算したものを設定する必要があります。
SEMMSL	256	最初のインストールに対してのみの、最小推奨値を定義します。
SHMMAX	4294967295	1 つの共有メモリー・セグメントの許容可能な最大サイズ (4 GB = 4294967295) を定義します。
SHMMIN	1	単一の共有メモリー・セグメントの許容可能な最小サイズを定義します。
SHMMNI	100	システム全体の共有メモリー・セグメントの最大数を定義します。 注意： このパラメータは、Solaris 9 では使用できません。
SHMSEG	10	1 つのプロセスがアタッチできる共有メモリー・セグメントの最大数を定義します。 注意： このパラメータは、Solaris 9 では使用できません。

カーネル・パラメータの値を追加または更新するには、次の手順を実行します。

1. 値の変更が必要なコンピュータの root ユーザーになります。
2. /etc/system ファイルのバックアップ・コピーを作成します。たとえば、次のコマンドでは system.back というバックアップ・コピーが作成されます。

```
prompt> cp /etc/system /etc/system.back
```

3. vi または emacs などのテキスト・エディタを使用して、必要に応じて /etc/system ファイル内の値を更新、または新しい行を追加します。たとえば、次の各行は、パラメータの値の例です。

```
set semsys:seminfo_semgni=300
set semsys:seminfo_semms=800
set semsys:seminfo_semmsl=256
set shmsys:shminfo_shrmax=4294967295
set shmsys:shminfo_shrmin=1
set shmsys:shminfo_shrmmi=512
set shmsys:shminfo_shrmsg=150
```

注意： /etc/system ファイルのコメント文字はアスタリスク (*) であり、# ではありません。

4. コンピュータを再起動して、新しい値を有効にします。

2.9 ポート使用状況のチェック

この項は、Portal and Wireless 開発者トポロジをインストールする場合にのみ適用できません。

ポート 1521 でリスニングしているアプリケーションが他にある場合、それらが別々のポートでリスニングするように設定する必要があります。

次のコマンドを使用して、ポート 1521 がコンピュータのアプリケーションによって使用されているかどうかを確認します。

```
prompt> netstat -an | grep 1521
```

出力を確認して、ポート 1521 が使用されているかどうかを確認してください。

ポート 1521 が OracleAS Metadata Repository によって使用されている場合は、そのポートを Portal and Wireless のインストールと共有できます。ポートの共有については、Oracle Application Server のインストール・ガイドのドキュメントを参照してください。

ポート 1521 がサード・パーティのアプリケーションによって使用されている場合は、別のポートを使用するようにアプリケーションを構成する必要があります。ポートの共有については、Oracle Application Server のインストール・ガイドまたはサード・パーティのドキュメントを参照してください。

2.10 CD-ROM または DVD のマウント

Oracle CD-ROM は、Rockridge Extensions 仕様の ISO 9660 フォーマットです。DVD は、DVD-ROM フォーマットです。

ボリューム管理ソフトウェアを使用している場合は、CD-ROM または DVD をドライブに挿入すると、自動的にマウントされます。CD-ROM または DVD がマウントされない場合は、この項の手動マウントの説明を確認してください。

UNIX システム上で、CD-ROM または DVD を手動でマウントまたはアンマウントするには、root 権限が必要です。CD-ROM または DVD をドライブから取り出す前に、`umount` コマンドを使用してアンマウントします。

次の説明では、CD-ROM または DVD のマウント・ポイントは `cdrom` としています。使用しているマウント・ポイントと異なる場合は、すべての `cdrom` を正しいマウント・ポイント名に置き換えてください。

CD-ROM または DVD を手動でマウントする手順は次のとおりです。

1. CD-ROM または DVD を CD-ROM または DVD ドライブに挿入します。
2. root ユーザーとしてログインし、すべてのユーザーがアクセスできる CD-ROM または DVD のマウント・ポイント・ディレクトリを作成します。

```
% su
Password:
# mkdir /cdrom
# chmod 777 /cdrom
```

3. CD-ROM または DVD ドライブをマウント・ポイント・ディレクトリにマウントしたら、root アカウントを終了します。

```
# mount options device_name /cdrom
# exit
```

注意： Solaris (Sun SPARC) 上で Volume Manager を使用している場合は、CD-ROM が自動的にマウントされます。マウント・ポイントは通常、`/cdrom` です。

2.11 インストーラの起動

1. コンピュータが自動的に CD-ROM または DVD をマウントしない場合、マウント・ポイントを手動で設定する必要があります。詳細は、[2.10 項「CD-ROM または DVD のマウント」](#)を参照してください。
2. oracle ユーザーとしてログインします。su -oracle コマンドを使用して oracle ユーザーに切り替えた場合は、環境変数が oracle ユーザーに渡されない可能性があるため、環境変数の値を再度確認します。
3. CD-ROM ユーザーの場合 : Oracle Application Server Disk 1 を CD-ROM ドライブに挿入します。
DVD ユーザーの場合 : Oracle Application Server DVD を DVD ドライブに挿入します。
4. 「注意」の次に示すコマンドを実行して、CD-ROM または DVD から Oracle Universal Installer を起動します。

注意 :

- Oracle Universal Installer の起動時は、root ユーザーとしてログインしないでください。root ユーザーとしてログインすると、Oracle Application Server の管理権限が root ユーザーに限られてしまいます。
 - mount_point ディレクトリ内でインストールを開始しないでください。このディレクトリ内でインストールを開始すると、インストール・ディスクを取り出せない場合があります。次に示す cd コマンドにより、現在のディレクトリがホーム・ディレクトリに変更されます。
-
-

CD-ROM の場合 :

```
prompt> cd  
prompt> mount_point/904disk1/runInstaller
```

DVD の場合 :

```
prompt> cd  
prompt> mount_point/application_server/runInstaller
```

インストール

この章では、次の2つの Oracle Application Server のトポロジをインストールする方法を説明します。

- **Java 開発者トポロジ**: J2EE アプリケーションのデプロイとテストのための単純コンテナが必要な場合は、このトポロジをインストールします。
- **Portal and Wireless 開発者トポロジ**: OracleAS Portal、Oracle Application Server Wireless または Oracle Internet Directory や OracleAS Single Sign-On のような Identity Management サービスを使用するアプリケーションを開発する場合は、このトポロジをインストールします。このトポロジをインストールするには、OracleAS Infrastructure 10g をインストールする必要があります。

これらのトポロジは、開発環境のためのものです。配置トポロジを含めた他のトポロジについては、Oracle Application Server のインストール・ガイドを参照してください。配置トポロジのための Oracle Application Server コンポーネントの共存を確認するために、Oracle Application Server のインストール・ガイドを確認することをお勧めします。

3.1 Java 開発者トポロジのインストール

Java 開発者トポロジは J2EE and Web Cache インスタンスで構成され、ここで、J2EE アプリケーションをデプロイし、実行できます。

J2EE and Web Cache インスタンスをインストールするには、次の手順を実行します。

1. インストーラを起動します。詳細は、[2.11 項「インストーラの起動」](#)を参照してください。
2. 「ようこそ」画面: 「次へ」をクリックします。
3. これがこのコンピュータにインストールする最初の Oracle 製品である場合は、次の画面の要求に従ってイベント・ディレクトリを設定する必要があります。

a. 「インベントリ・ディレクトリの指定」画面

「インベントリ・ディレクトリのフルパスの入力」: インストーラでファイルを格納するディレクトリのフルパスを入力します。Oracle ホーム・ディレクトリとは異なるディレクトリを入力します。

例: /opt/oracle/oraInventory

「OK」をクリックします。

b. 「UNIX グループ名」画面

インベントリ・ディレクトリの書込み権限を持つオペレーティング・システム・グループの名前を入力します。

例: oinstall

「次へ」をクリックします。

- c. oraInstRoot.sh の実行: 別のシェルで root ユーザーとして oraInstRoot.sh スクリプトを実行します。このスクリプトは、oraInventory ディレクトリにあります。

「OK」をクリックします。

4. 「ファイルの場所の指定」画面:

「名前」: この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例: OH_J2EE_904

「パス」: インストール先のディレクトリへのフルパスを入力します。これは、Oracle ホーム・ディレクトリです。

例: /opt/oracle/OraJ2EE_904

インストール先のディレクトリが存在しない場合は、Oracle Universal Installer により作成されます。

インストール先のディレクトリを事前に作成する場合は、**oracle** ユーザーとして作成します。**root** ユーザーとして作成しないでください。

「次へ」をクリックします。

5. 「ハードウェアのクラスタ・インストール・モードの指定」画面: この画面は、コンピュータがハードウェア・クラスタの一部である場合にのみ表示されます。このインスタンスは、クラスタのすべてのコンピュータに自動的にインストールされることはありません。「単一ノード・インストール」を選択して、「次へ」をクリックします。
6. 「インストールする製品の選択」画面: 「Oracle Application Server」を選択して、「次へ」をクリックします。
7. 「インストール・タイプの選択」画面: 「J2EE and Web Cache」を選択して、「次へ」をクリックします。
8. 「中間層インストールの手順のプレビュー」画面: 「次へ」をクリックします。
9. 「インストール前の要件の確認」画面: 使用しているコンピュータがすべての要件を満たしていることを確認して、「次へ」をクリックします。
10. 「構成オプションの選択」画面:

この Oracle Application Server インスタンスでキャッシュ機能を使用する場合は、「OracleAS Web Cache」を選択します。

「Identity Management Access」を選択しないでください。

「OracleAS Database-Based Cluster」を選択しないでください。

「OracleAS File-Based Cluster」を選択しないでください。

「次へ」をクリックします。

11. OracleAS インスタンス名と `ias_admin` パスワードの指定画面:

「インスタンス名」: このインスタンスの名前を入力します。1つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがある場合は、インスタンス名は一意である必要があります。

例: J2EE_904

「ias_admin パスワード」および「パスワードの確認」: `ias_admin` ユーザーのパスワードを入力して、確認します。これは、このインスタンスの管理ユーザーです。

パスワードは5文字以上で、そのうちの1文字は数字にする必要があります。

「次へ」をクリックします。

12. 「サマリー」画面

選択した内容を確認し、「インストール」をクリックします。

Oracle Universal Installer によってファイルがインストールされ、Oracle Application Server コンポーネントが構成されます。多少時間がかかることがあります。

13. root.sh の実行ダイアログ

注意： 要求されるまで `root.sh` を実行しないでください。Oracle Universal Installer から、`root.sh` の実行を要求する画面が表示されます。

別のウィンドウで `root` ユーザーとしてログインし、`root.sh` スクリプトを実行します。このスクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。

「Configuration Assistant」画面には、Configuration Assistant の進捗状況が表示されません。Configuration Assistant によって、Oracle Application Server コンポーネントが構成されます。

14. 「インストールの終了」画面

「終了」をクリックして、インストーラを終了します。

3.2 Portal and Wireless 開発者トポロジのインストール

このトポロジで、Portal and Wireless 中間層をインストールします。これにより、OracleAS Portal や OracleAS Wireless などのコンポーネントを使用するアプリケーションを配置できるようになります。Portal and Wireless 中間層には、OracleAS Infrastructure 10g が必要です。これは、Portal and Wireless 中間層をインストールする前にインストールしておきます。

3.2.1 OracleAS Infrastructure 10g のインストール

次の手順により、新規データベースと新規の Oracle Internet Directory を持つインフラストラクチャがインストールされます。

1. インストーラを起動します。詳細は、2.11 項「[インストーラの起動](#)」を参照してください。
2. 「ようこそ」画面：「次へ」をクリックします。
3. これがこのコンピュータにインストールする最初の Oracle 製品である場合は、次の画面の要求に従ってインベント・ディレクトリを設定する必要があります。
 - a. 「[インベントリ・ディレクトリの指定](#)」画面

「インベントリ・ディレクトリのフルパスの入力」： インストーラでファイルを格納するディレクトリのフルパスを入力します。Oracle ホーム・ディレクトリとは異なるディレクトリを入力します。

例: /opt/oracle/oraInventory

「OK」をクリックします。

b. 「UNIX グループ名」画面

インベントリ・ディレクトリの書込み権限を持つオペレーティング・システム・グループの名前を入力します。

例: oinstall

「次へ」をクリックします。

c. oraInstRoot.shの実行: 別のシェルで root ユーザーとして oraInstRoot.sh スクリプトを実行します。このスクリプトは、oraInventory ディレクトリにあります。

「OK」をクリックします。

4. 「ファイルの場所の指定」画面:

「名前」: この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例: OH_INFRA_904

「パス」: Oracle ホーム・ディレクトリへのフルパスを入力します。

例: /opt/oracle/OraInfra_904

インストール先のディレクトリが存在しない場合は、Oracle Universal Installer により作成されます。

インストール先のディレクトリを事前に作成する場合は、oracle ユーザーとして作成します。root ユーザーとして作成しないでください。

「次へ」をクリックします。

5. 「ハードウェアのクラスタ・インストール・モードの指定」画面: この画面は、コンピュータがハードウェア・クラスタの一部である場合にのみ表示されます。

高可用性環境をインストールする場合は、Oracle Application Server のインストール・ガイドおよび『Oracle Application Server 10g 高可用性ガイド』を参照してください。

「単一ノード・インストール」を選択して、「次へ」をクリックします。

6. 「インストールする製品の選択」画面: 「OracleAS Infrastructure 10g」を選択して、「次へ」をクリックします。

7. 「インストール・タイプの選択」画面: 「Identity Management」および「OracleAS Metadata Repository」を選択して、「次へ」をクリックします。

8. 「Infrastructure のインストール手順のプレビュー」画面: 「次へ」をクリックします。

9. 「インストール前の要件の確認」画面： 使用しているコンピュータがすべての要件を満たしていることを確認して、「次へ」をクリックします。

2.9 項「ポート使用状況のチェック」を参照して、ポート 1521 が使用可能かどうかを確認します。

10. 「構成オプションの選択」画面：

「Oracle Internet Directory」を選択します。

「OracleAS Single Sign-On」を選択します。

「Oracle Delegated Administration Services」を選択します。

「Oracle Directory Integration and Provisioning」を選択します。

「OracleAS Certificate Authority」を選択しないでください。

「High Availability Addressing」を選択しないでください。

「次へ」をクリックします。

11. 「Internet Directory のネームスペースの指定」画面： 「推奨されるネームスペース :」を選択して、「次へ」をクリックします。

12. OracleAS Metadata Repository データベースを作成するための情報を入力します。

a. 権限付きオペレーティング・システム・グループの指定画面

この画面は、dba オペレーティング・システム・グループに属さないユーザーとしてインストーラを実行する場合に表示されます。

データベース管理者 (OSDBA) グループ： 属しているオペレーティング・システム・グループの名前を入力します。

例：dbadmin

データベース・オペレータ (OSOPER)・グループ： 属しているオペレーティング・システム・グループの名前を入力します。

例：dbadmin

「次へ」をクリックします。

b. データベースの識別の指定画面

「グローバル・データベース名」： OracleAS Metadata Repository データベースの名前を入力し、コンピュータのドメイン名をデータベース名に追加します。

例：asdb.acme.com

「SID」： OracleAS Metadata Repository データベースのシステム識別子を入力します。通常、これは一意のグローバル・データベース名ですが、ドメイン名は含めません。SID は、すべてのデータベースで一意である必要があります。

例 : asdb

「次へ」をクリックします。

- c. SYSおよびSYSTEM ユーザーのパスワードの指定と確認画面: これらのデータベース・ユーザーのパスワードを設定します。これは、データベース管理に使用される権限付きアカウントです。

「次へ」をクリックします。

- d. データベース・ファイルの場所の指定画面:

データベース・ファイルのディレクトリの入力または選択: インストーラで OracleAS Metadata Repository データベース用のデータ・ファイルを作成するディレクトリを入力します。

例 : /data_partition/ias_dbfiles/

「次へ」をクリックします。

- e. データベース・キャラクタ・セットの指定画面: 「デフォルト・キャラクタ・セットを使用」を選択します。

「次へ」をクリックします。

13. OracleAS インスタンス名と ias_admin パスワードの指定画面:

「インスタンス名」: このインスタンスの名前を入力します。1つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがある場合は、インスタンス名は一意である必要があります。

例 : INFRA_904

「ias_admin パスワード」および「パスワードの確認」: ias_admin ユーザーのパスワードを入力して、確認します。これは、このインスタンスの管理ユーザーです。

パスワードは5文字以上で、そのうちの1文字は数字にする必要があります。

「次へ」をクリックします。

14. 「サマリー」画面

選択した内容を確認し、「インストール」をクリックします。

Oracle Universal Installer によってファイルがインストールされ、Oracle Application Server コンポーネントが構成されます。多少時間がかかることがあります。

15. root.sh の実行画面

注意: 要求されるまで root.sh を実行しないでください。Oracle Universal Installer から、root.sh の実行を要求する画面が表示されます。

別のウィンドウで root ユーザーとしてログインし、root.sh スクリプトを実行します。このスクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。

16. 「インストールの終了」画面

「終了」をクリックして、インストーラを終了します。

3.2.2 Portal and Wireless インスタンスのインストール

この手順により、Portal and Wireless インスタンスがインストールされ、[3.2.1 項「OracleAS Infrastructure 10g のインストール」](#) でインストールしたインフラストラクチャを使用するように構成されます。

1. インストーラを起動します。詳細は、[2.11 項「インストーラの起動」](#) を参照してください。
2. 「ようこそ」画面: 「次へ」をクリックします。
3. 「ファイルの場所の指定」画面:

「名前」: この Oracle ホームを識別する名前を入力します。

例: OH_PORTAL_904

「パス」: Oracle ホーム・ディレクトリへのフルパスを入力します。

例: /opt/oracle/OraPortal_904

インストール先のディレクトリが存在しない場合は、Oracle Universal Installer により作成されます。

インストール先のディレクトリを事前に作成する場合は、oracle ユーザーとして作成します。root ユーザーとして作成しないでください。

「次へ」をクリックします。

4. 「ハードウェアのクラスタ・インストール・モードの指定」画面: この画面は、ハードウェア・クラスタの一部であるコンピュータにインストールする場合にのみ表示されます。単一ノード・インストールを選択して、「次へ」をクリックします。
高可用性環境をインストールする場合は、Oracle Application Server のインストール・ガイドおよび『Oracle Application Server 10g 高可用性ガイド』を参照してください。
5. 「インストールする製品の選択」画面: 「Oracle Application Server」を選択して、「次へ」をクリックします。
6. 「インストール・タイプの選択」画面: 「Portal and Wireless」を選択して、「次へ」をクリックします。
7. 「中間層インストールの手順のプレビュー」画面: 「次へ」をクリックします。

8. 「インストール前の要件の確認」画面: 使用しているコンピュータがすべての要件を満たしていることを確認して、「次へ」をクリックします。
9. 「構成オプションの選択」画面:
 - 「OracleAS Portal」を選択します。
 - 「OracleAS Wireless」を選択します。
 - 「次へ」をクリックします。
10. Oracle Internet Directory の接続情報を入力します。
 - a. 「Oracle Internet Directory への登録」画面
 - 「ホスト名」: Oracle Internet Directory を実行しているコンピュータの名前を入力します。
 - 「ポート」: Oracle Internet Directory がリスニングしているポートのポート番号を入力します。Oracle Internet Directory のポート番号を特定するには、インフラストラクチャの `ORACLE_HOME/install` ディレクトリ内にある `portlist.ini` ファイルを確認してください。
 - 「この Oracle Internet Directory には SSL 接続のみ使用」を選択した場合は、`portlist.ini` ファイル内の Oracle Internet Directory (SSL) パラメータからポート番号を取得する必要があります。
 - 「次へ」をクリックします。
 - b. 「Oracle Internet Directory に対するログインの指定」画面
 - 「ユーザー名」: `orcladmin` を入力します。これは、Oracle Internet Directory 管理者の名前です。
 - 「パスワード」: `orcladmin` のパスワードは、インフラストラクチャの `ias_admin` ユーザーのパスワードと同じです。このパスワードは、インフラストラクチャをインストールしたときに入力したものです (3.2.1 項「OracleAS Infrastructure 10g のインストール」の手順 13 を参照)。
 - 「次へ」をクリックします。
11. Metadata Repository の選択画面
 - 「リポジトリ」: この中間層インスタンスで使用する OracleAS Metadata Repository を選択して、「次へ」をクリックします。
12. OracleAS インスタンス名と `ias_admin` パスワードの指定画面:
 - 「インスタンス名」: このインスタンスの名前を入力します。1つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがある場合は、インスタンス名は一意である必要があります。

例: `PORTAL_904`

「ias_admin パスワード」および「パスワードの確認」: ias_admin ユーザーのパスワードを入力して、確認します。これは、このインスタンスの管理ユーザーです。

パスワードは5文字以上で、そのうちの1文字は数字にする必要があります。

「次へ」をクリックします。

13. 「サマリー」画面

選択した内容を確認し、「インストール」をクリックします。

Oracle Universal Installer によってファイルがインストールされ、Oracle Application Server コンポーネントが構成されます。多少時間がかかることがあります。

14. root.sh の実行画面

注意: 要求されるまで `root.sh` を実行しないでください。Oracle Universal Installer から、`root.sh` の実行を要求する画面が表示されません。

別のウィンドウで `root` ユーザーとしてログインし、`root.sh` スクリプトを実行します。このスクリプトは、このインスタンスの Oracle ホーム・ディレクトリにあります。

「OK」をクリックします。

15. 「インストールの終了」画面:

「終了」をクリックして、インストーラを終了します。

3.3 「ようこそ」ページへのアクセス

インストールの後に Oracle Application Server の「ようこそ」ページにアクセスして、インストールに成功したことを確認します。「ようこそ」ページの URL は、次のとおりです。

```
http://hostname.domainname:http_port
```

`ORACLE_HOME/install` ディレクトリにある `portlist.ini` ファイルを確認して、`http_port` を特定します。`http_port` は、"Oracle HTTP Server listen port" 行に表示されます。

注意： 1つのコンピュータに複数の Oracle Application Server インスタンスがインストールされている場合は、各インスタンスが独自のポート番号のセットを持っています。正しいポート番号を使用していることを確認するには、`portlist.ini` ファイルを確認してください。

「ようこそ」ページには、次のような役立つページへのリンクが含まれています。

- Oracle Application Server 10g (9.0.4) の新機能
- Oracle Enterprise Manager Application Server Control (Application Server Control)。これは、ブラウザベースの管理ツールです。
- リリース・ノート
- デモ

OracleAS Metadata Repository の既存の Oracle データベースへのインストール

OracleAS Metadata Repository を既存の Oracle データベースにインストールする場合は、Oracle Application Server Repository Creation Assistant (OracleAS RepCA) と呼ばれるツールを実行します。このツールによって、OracleAS Metadata Repository のデータが既存のデータベースにロードされます。

『Oracle Application Server Repository Creation Assistant 既存のデータベースへの Oracle Application Server Metadata Repository のインストール』に、OracleAS RepCA および関連ドキュメントがあります。

アップグレード

この章では、J2EE and Web Cache のインストール・タイプ、および Portal and Wireless インストール・タイプの OracleAS Portal コンポーネントを、リリース 2 (9.0.2) またはリリース 2 (9.0.3) から 10g (9.0.4) にアップグレードする方法を説明します。

この項では、インフラストラクチャ内で OracleAS Portal スキーマをアップグレードする方法については説明しません。

この項には、アップグレード・プロセスの多くを自動化する、Oracle Application Server Upgrade Assistant (OracleAS Upgrade Assistant) の使用手順も含まれています。

関連項目： Oracle Application Server のアップグレード

この項では、次の項目について説明します。

- [5.1 項「表記規則」](#)
- [5.2 項「アップグレード前のタスクの実行」](#)
- [5.3 項「J2EE and Web Cache のアップグレードの実行」](#)
- [5.4 項「Portal and Wireless のアップグレードの実行」](#)

5.1 表記規則

5 項では、Oracle ホームへの参照に次の表記規則を使用します。

- リリース 2 (9.0.2) またはリリース 2 (9.0.3) Oracle Application Server インスタンスは、パス名の中で `<source_MT_OH>` として指定されます。
- 10g (9.0.4) インスタンスは、パス名の中で `<desination_MT_OH>` として指定されま

5.2 アップグレード前のタスクの実行

アップグレード前に、次の項のタスクを実行します。

- [5.2.1 項「Oracle Application Server 10g \(9.0.4\) のインストール」](#)
- コンポーネント特有のアップグレード前のタスクについては、Oracle Application Server のアップグレードを参照してください。

5.2.1 Oracle Application Server 10g (9.0.4) のインストール

アップグレード前に、Oracle Application Server 10g (9.0.4) をインストールする必要があります。Oracle Application Server 10g (9.0.4) のインストール中に、J2EE and Web Cache または Portal and Wireless のインストール・タイプを選択します。Oracle Application Server の宛先インスタンスがない場合、アップグレードは行われません。(新しいインフラストラクチャをインストールしないでください。)

ソース・インスタンスのインストール・タイプは、宛先インスタンスのインストール・タイプと一致している必要があります。Oracle Application Server のソースおよび宛先インスタンスは、同じコンピュータ上に存在する必要があります。ソース・インスタンスでインフラストラクチャが使用されている場合は、宛先インスタンスでも、同じ Oracle Internet Directory とメタデータ・リポジトリが使用されています。(新しいインフラストラクチャをインストールしないでください。)

注意： インストール前のすべての要件が満たされ、関連するすべての手順が手動で実行されていることが重要です。そうでない場合、10g (9.0.4) のインストールはリリース 2 (9.0.2) のインフラストラクチャとともに機能しません。特に、OracleAS Single Sign-on の構成は失敗します。

注意： インストール中に、OracleAS Metadata Repository 内の OracleAS Wireless スキーマがアップグレードされます。

関連項目：

- 3.1 項「Java 開発者トポロジのインストール」
- 3.2 項「Portal and Wireless 開発者トポロジのインストール」

5.3 J2EE and Web Cache のアップグレードの実行

この手順により、J2EE and Web Cache インスタンスをアップグレードできます。

1. 次のコマンドを使用して、Application Server Control を停止します。

```
<source_MT_OH>/bin/emctl stop  
<destination_MT_OH>/bin/emctl stop iasconsole
```

2. J2EE and Web Cache インスタンス内で、次のコマンドで、OPMN およびそれによって管理される Oracle Application Server プロセスを停止します。

```
<source_MT_OH>/opmn/bin/opmnctl stopall  
<destination_MT_OH>/opmn/bin/opmnctl stopall
```

3. 次のコマンドで、OracleAS Upgrade Assistant を起動します。

```
<destination_MT_OH>/upgrade/iasua.sh
```

4. 「ようこそ」画面：「次へ」をクリックします。

5. 「Oracle ホーム」画面：

ドロップダウン・リストからソースの J2EE and Web Cache の Oracle ホームを選択して、「次へ」をクリックします。

6. 「コンポーネントの調査」ダイアログ画面：

「OK」をクリックします。

7. 「要件」画面：

すべての要件が満たされていることを確認し、すべてのチェック・ボックスにチェックマークを付けて、「次へ」をクリックします。

8. 「サマリー」画面：

「完了」をクリックして、アップグレード処理を開始します。

9. 「アップグレードに成功しました」ダイアログ画面：

「OK」をクリックします。

関連項目： アップグレードした J2EE and Web Cache の構成が次のいずれかの状態にあるときは、Oracle Application Server のアップグレード・ガイドの実行する必要があるアップグレードの手動タスクに関する項を参照してください。

- ファイルがデフォルト以外の場所にある
- 構成ファイルがカスタムのファイルおよびディレクトリを参照する
- 10g (9.0.4) 内で使用するデフォルトのドキュメント・ルート・ディレクトリ内に静的ドキュメントおよびディレクトリがある
- 最初のリスナーとして Web Cache 構成されている

5.4 Portal and Wireless のアップグレードの実行

次の手順に従って、Portal and Wireless 中間層をアップグレードします。

1. 次のコマンドを使用して、Application Server Control を停止します。

```
<source_MT_OH>/bin/emctl stop  
<destination_MT_OH>/bin/emctl stop iasconsole
```

2. Portal and Wireless インスタンス内で、次のコマンドを使用して、OPMN およびそれによって管理される Oracle Application Server プロセスを停止します。

```
<source_MT_OH>/opmn/bin/opmnctl stopall  
<destination_MT_OH>/opmn/bin/opmnctl stopall
```

3. 次のコマンドで、OracleAS Upgrade Assistant を起動します。

```
<destination_MT_OH>/upgrade/iasua.sh
```

4. 「ようこそ」画面:

「次へ」をクリックします。

5. 「Oracle ホーム」画面:

ドロップダウン・リストから Portal and Wireless のソースの Oracle ホームを選択して、「次へ」をクリックします。

6. 「コンポーネントの調査」ダイアログ画面:

「OK」をクリックします。

7. 「要件」画面:

すべての要件が満たされていることを確認し、すべてのチェック・ボックスにチェックマークを付けます。「次へ」をクリックします。

8. 「サマリー」画面:
「完了」をクリックして、アップグレード処理を開始します。
9. 「アップグレードに成功しました」ダイアログ画面:
「OK」をクリックします。

関連項目: Parallel Page Engine または Portal Development Kit Services for Java がカスタマイズされていた場合は、Oracle Application Server のアップグレード・ガイドの OracleAS Portal のアップグレードの実行に関する項を参照してください。これらのカスタマイズは、<source_MT_OH>内のファイルから <destination_MT_OH>内の対応するファイルにコピーされる必要があります。

6

その他のリソース

6.1 クイック・リファレンス

表 6-1

リソース	連絡先 / Web サイト
開発者向けのテクニカル・リソースにアクセスできます。	http://otn.oracle.co.jp/
インストール・マニュアルにアクセスできます。	http://otn.oracle.co.jp/install/
サポート・サービスに関する情報にアクセスできます。	http://www.oracle.co.jp/support/
日本オラクル技術営業の連絡先です。	0120-155-096 (受付時間等の詳細は後述)

6.2 オラクル製品のインストールに関する情報

オラクル製品のインストールに関する情報及びマニュアルを提供しております。

以下 URL をご参照ください。ただし、個々の環境に依存する問題、検証が必要となるようなケースはサポートサービス（有償）の締結が必要になりますのでご了承ください。

- ❑ OTN インストール・センター
<http://otn.oracle.co.jp/>
 (場所) [OTN] – [テクノロジーセンター] – [インストール]
- ❑ Oracle Technology Network・掲示板
<http://otn.oracle.co.jp/>
 (場所) [OTN] – [掲示板] – [ビギナー・初心者の部屋]
- ❑ インストレーション・ガイド・ダウンロード
<http://otn.oracle.co.jp/>
 (場所) [OTN] – [ドキュメント] – [製品名] – [OS]
- ❑ 製品 FAQ 検索
<http://support.oracle.co.jp/>
 (場所) [Oracle Ineternet Support Cneter] – [製品 FAQ 検索]
 キーワード：インストール、install など

上記を参照しても解決されないインストール時の不明／問題点については支援サービスを提供しております。下記オラクル製品が対象になりますので下記 URL からご質問くださいますようお願いいたします。

- インストールサービスご利用方法
http://www.oracle.co.jp/install_service/
 - 対象製品
 - Oracle Database Standard Edition
 - Oracle Database Personal Edition
 - 対象 OS
 - Linux Intel
 - Microsoft Windows

6.3 Oracle Technology Network Japan

OTN Japan は開発者に必要な技術リソースを提供する会員制、日本オラクル公式技術サイトです。OTN Japan にご登録（無償）いただくと、技術資料、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・ダウンロード、サンプル・コード、掲示板、ポイントプログラム、オラクル関連書籍のディスカウント、OTN 有償プログラムなど様々なサービスを受けることができます。

- OTN Japan 登録方法
<http://otn.oracle.co.jp/>
上記 URL から「OTN の歩き方」をご覧ください。
- 技術資料
<http://otn.oracle.co.jp/products/>
オラクル製品の最新情報を提供します。目標とする技術資料をすばやく参照できるわかりやすいカテゴリーになっています。
- ソフトウェア・ダウンロード
<http://otn.oracle.co.jp/software/>
オラクル製品のトライアル版、早期アクセス版、ユーティリティ、ドライバなどを無償でダウンロードできます。最新バージョンをタイムリーに掲載していますので、OTN Japan で提供している技術資料、ドキュメントなどと併せて使用することにより、いち早く最新のオラクルテクノロジーを体験できます。
- ドキュメント
<http://otn.oracle.co.jp/document/>
オラクル製品のインストレーション・ガイド、リリース・ノートなどのドキュメント（マニュアル）を掲載しています。製品に同梱されているドキュメントから有償マニュアルに至るまで、最新のドキュメントをタイムリーに掲載しています。

□ サンプル・コード

http://otn.oracle.co.jp/sample_code/

開発者がちょっとしたところで苦勞するプログラムのサンプルを掲載しています。オラクル最新テクノロジーに準拠したサンプルプログラムの数々をお役立てください。

□ 掲示板

<http://otn.oracle.co.jp/forum/>

オラクル製品を用いて開発される皆さんのためのコミュニティです。Web によるディスカッション・フォーラム（掲示板）を通して、オラクル開発者間で情報交換ができます。それぞれの開発ノウハウを共有することで、より効率的な開発ができます。OTN 掲示板専用のビューア「OTN Viewer」もごございます。

□ ポイントプログラム

<http://otn.oracle.co.jp/point/>

OTN Japan 活性化に貢献された会員にポイント進呈する OTN ポイントプログラムを設けています。獲得ポイントは OTN グッズと交換したり、掲示板投稿時の懸賞ポイントとして使用できます。

□ OTN 有償プログラム

<http://otn.oracle.co.jp/upgrade/>

OTN 有償プログラムは、OTN 会員様向けの有償アップグレードサービスです。OTN Japan サイトでご提供している無償サービスに加え、最新のオラクル製品を開発ライセンスでご使用いただける OTN Software Kit（日本語版 CD-ROM）の送付やオラクル技術書籍ご購入時のディスカウントなど、有償ならではの様々なサービスをご提供いたします。

□ お薦めサービス「SQL 構文検索サービス」

<http://otn.oracle.co.jp/document/sqlconst/>

SQL 文や SQL 関数をオンラインで参照できる SQL 構文検索サービスです。

□ お薦めサービス「エラー・メッセージ検索 (Oracle9i)」

<http://otn.oracle.co.jp/document/msg/>

オラクル製品の使用中に表示されるエラー・メッセージについて検索します。

□ お薦めサービス「TechBlast メールサービス」

<http://otn.oracle.co.jp/techblast/>

OTN Japan では配信を希望された会員の皆様へほぼ月に 1～2 回メールをお送りしています。新着情報のほか、会員の皆様には是非ともお知らせしたいセミナーやイベント情報、読み物として製品や最新技術に関する連載を掲載しています。

6.4 OracleDirect

OracleDirect では、電話とインターネットを通じて、製品ご購入前のオラクル製品に関連するお問い合わせをはじめとする、お客様からの様々なお問合せに対応いたします。

OracleDirect に関する詳細は、下記の Web サイトをご覧ください。

<http://www.oracle.co.jp/contact/>

□ お問い合わせ先

TEL : 0120-155-096

FAX : 03-3511-5339

Web 問合せ : <http://www.oracle.co.jp/contact/>

※ 電話受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 18:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)

また、OracleDirect にてお受けできるご質問内容は以下の通りとなりますので、ご連絡の前にご確認ください。

ご質問にお答えできる内容 (概要)

- 製品に関して日本国内で公表されている一般的な内容
 - 出荷日、出荷予定日
 - 価格およびライセンス
 - システム要件
 - ハードウェア (メモリ容量、ディスク容量)
 - ソフトウェア (対応 OS、対応コンパイラなど)
 - 製品の基本機能 (カタログに記載されているレベルまで)
 - 製品バージョン (RDBMS、Net 等の接続対応バージョンの案内)
 - メンテナンス・サポート契約の概要
 - ※メンテナンス・サポート契約の照会・確認・お見積りはディストリビューションセンターまで。
 - カatalog、資料請求、セミナー内容に関するお問合せ
 - お客様の個別環境への提案
 - 製品概要の説明や応用例、システム構成について営業担当者への直接相談
- 以下のお問合せにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。
- マニュアルに関すること (オンラインマニュアルも含む)
 - 国内未発表の内容 (日本オラクルが正式に公表した内容以外のもの)

- 他社から販売されているオラクル関連製品に関するお問合せ
- 技術的な内容（テクニカルサポートレベル）

6.5 サポートサービス

オラクルではお客様のシステムの健康状態を維持するために、**Oracle Support Services** をご用意しています。オラクル製品の専門技術者が、様々な形でお客様の問題解決のお手伝いをいたします。

- 障害回避策提示
- 修正プログラムの提供
- インターネット・サポート
- 技術情報の提供 など

Oracle Support Services でメンテナンス・サポートをご契約のお客様は、以下の技術サポートを受けられます。サポートサービスには電話やインターネットによる技術サポートの他、インターネット上での各種技術情報へのアクセス、ご契約済み製品のバージョンアップ用メディアの提供、**Oracle Support Letter**（毎月）の提供などが含まれます。

□ 技術サポート

ご契約のお客様は、インターネットおよび電話による技術サポートを受けられます。お問合せは、毎日 24 時間受付けております。お問合せの方法についての詳細は、ご契約されたお客様にお送りする「**Oracle Support User's Guide**」をご覧ください。

インターネットでは、次の Web サイトで **Oracle Support Services** について紹介しています。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

□ OiSC（Oracle internet Support Center）

サポート・センターでは、24 時間ご利用いただけるポータル Web サイトとして OiSC をご用意し、お客様に役立つサポートサービス関連情報を提供しています。

- サポート関連の新着情報
- インターネット上での **Oracle Support Letter** の参照
- パッチのダウンロード
- お問合せの受付、更新、状況確認
- 下記 **MetaLink** へのリンク
- サービス内容のご紹介

□ KROWN

ディレクトリ・サービスやキーワード検索サービスを備えた、25,000 タイトル以上からなる技術情報です。前記 OiSC からご利用ください。

MetaLink : Oracle Support Services をご契約のお客様は、Web によるサポートサービスである MetaLink を 24 時間ご利用いただけます。MetaLink は、全世界から集められた英語での技術情報が収録されている知識ベースです。インターネット上でご覧いただけます。

□ Oracle Support Letter

毎月更新されるサポート技術情報や、新しいバージョンの製品情報などを CD-ROM でお届けします。Oracle Support Letter には以下の情報が掲載されています。

- 毎月の新着情報
- 技術情報 (Q&A、Oracle User バックナンバーなど)
- お客様へのご案内
- その他 (製品のバージョンアップ情報、サポートサービス関連の各種注文書など)
- Oracle Support Letter は OiSC でもご覧いただけます。

□ お問い合わせ先

日本オラクル ディストリビューションセンター

TEL : 0570-093812

※受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)

ディストリビューションセンターでは、Oracle Support Services のメンテナンス・サポート契約について、以下のような情報をご案内いたします。

- 新規メンテナンス・サポート契約に関するご相談
- メンテナンス・サポート契約に基づくサービス内容のご紹介
- メンテナンス・サポート契約書の記入方法
- メンテナンス・サポート料金について

または、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

6.6 研修サービス

日本オラクルの研修サービスに関する詳しいお問合せは下記までお願いいたします。研修サービスに関する詳細は、下記 Web サイトでもご紹介しています。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

□ お問合せ先

日本オラクル株式会社エデュケーションサービス本部 研修コールセンター

TEL : 03-5766-4411

FAX : 03-5766-4400

※電話受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)